

第1 災害の実態

1 火災概況

令和2年中の火災は、総出火件数 642 件、損害額 6,956,768 千円、死者 26 人、負傷者 112 人、焼損棟数 557 棟、り災世帯数 324 世帯、建物焼損床面積 64,198 平方メートル、建物焼損表面積 1,532 平方メートル、林野焼損面積 304a となっている。

(1) 出火件数

総出火件数は 642 件で前年に比べ 12 件（1.8%）減少している。これは1日に約 1.76 件の割合で火災が発生していることになる。

ア 火災種別ごとの出火件数

建物火災が 369 件で全体の 57.5%と最も多く、次に、車両火災（69 件）、林野火災（28 件）と続いている。

建物火災を種別ごとにみると、一般住宅火災が 147 件（39.8%）と最も多く、次いで共同住宅火災となっており、住宅からの出火が半数以上を占める。（表 1，図 1，図 2）

表 1 火災種別出火件数

区分 種別	令和2年		令和元年		増減 (A-B)
	件数(A)	全体比(%)	件数(B)	全体比(%)	
建物	369	57.5	356	54.4	13
林野	28	4.4	31	4.7	△3
車両	69	10.7	79	12.1	△10
船舶	3	0.5	0	0	3
航空機	0	0	0	0	0
その他	173	26.9	188	28.8	△15
合計	642	100.0	654	100.0	△12

図 1 全火災種別内訳

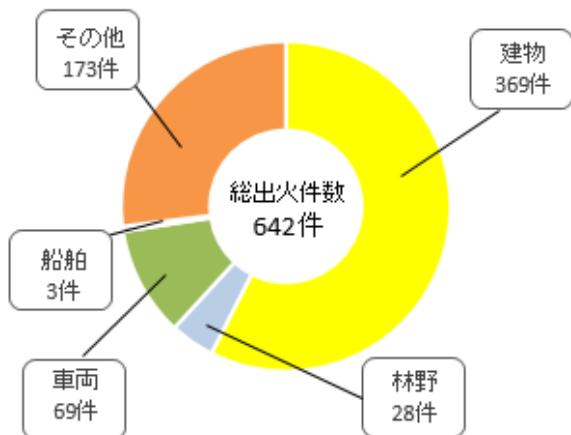
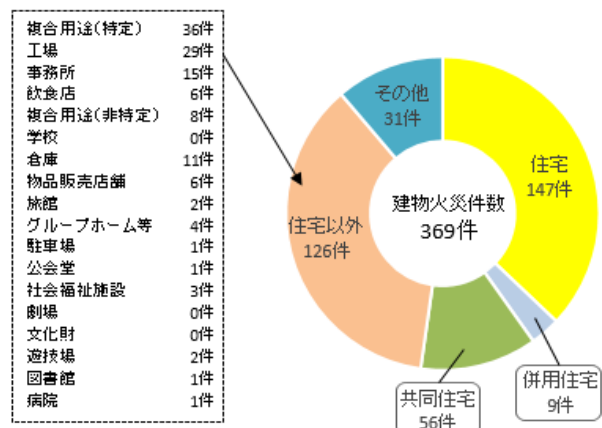


図 2 建物火災用途別内訳



イ 月・四季別出火件数

月別に見ると、令和2年は4月の出火件数が74件（全体比11.5%）で最も多い。（図3）

図3 月別出火件数

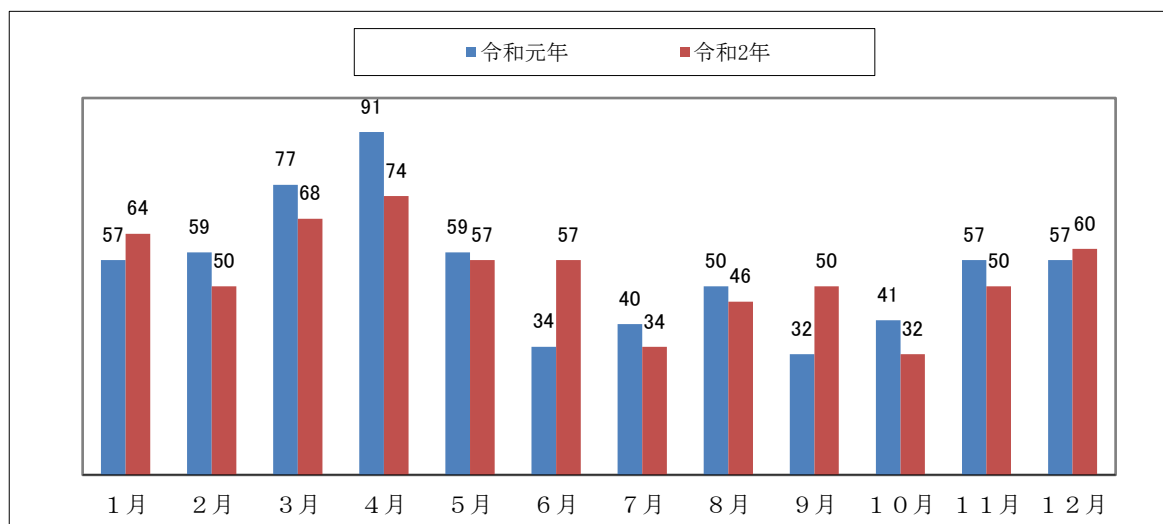


表2 四季別出火件数

	令和2年		令和元年	
	件数	全体比(%)	件数	全体比(%)
春季(3~5月)	199	31.0	227	34.7
夏季(6~8月)	137	21.3	124	19.0
秋季(9~11月)	132	20.6	130	19.9
冬季(1~2月及び12月)	174	27.1	173	26.4
合計	642	100.0	654	100.0

(2) 消防機関の火災覚知方法

消防機関の火災覚知方法は、専用電話への通報によるものが410件（63.9%）で最も多い。なお、このうち携帯電話からの通報は件で半数を超えている。（表3）

表3 火災の覚知方法

（令和2年1月1日から令和2年12月31日まで）

	専用電話	加入電話	警察電話	駆付け通報	事後聞知	その他	合計
件数	410	63	15	2	140	12	642
全体比(%)	63.9	9.8	2.3	0.3	21.8	1.9	100.0

(3) 人口一人当たりの市町村別出火率

表4 市町村別出火率（令和2年1月1日から令和2年12月31日まで）

市町村名	出火率	市町村名	出火率	市町村名	出火率	市町村名	出火率
仙台市	2.35	栗原市	6.84	丸森町	6.97	加美町	4.87
石巻市	3.12	東松島市	4.29	亶理町	2.09	涌谷町	1.93
塩竈市	1.68	大崎市	2.88	山元町	3.31	美里町	1.65
気仙沼市	3.09	富谷市	2.48	松島町	2.92	女川町	6.42
白石市	3.93	蔵王町	6.83	七ヶ浜町	2.17	南三陸町	3.22
名取市	2.26	七ヶ宿町	15.14	利府町	1.67		
角田市	2.84	大河原町	2.55	大和町	4.24		
多賀城市	1.60	村田町	10.37	大郷町	5.04		
岩沼市	1.82	柴田町	2.66	大衡村	3.41		
登米市	3.75	川崎町	3.49	色麻町	4.51	県平均	3.95

(注) 出火率(%) = (出火件数 ÷ 令和2年12月現在住民基本台帳による人口) × 10,000

(4) 初期消火器具

初期消火に使った器具は、「水道・浴槽・汲み置き等の水をかけた」が多い。(表5)

表5 火災発生時の初期消火器具（令和2年1月1日から令和2年12月31日まで）

初期消火器具	件数	全体比(%)	初期消火器具	件数	全体比(%)
水バケツ	15	2.3	スプリンクラー設備	2	0.3
乾燥砂	1	0.2	屋外消火栓設備	2	0.3
強化液消火器	8	1.2	水道、浴槽、汲み置き等の水をかけた	178	27.7
泡消火器	1	0.2	寝具、衣類等をかけた	15	2.3
二酸化炭素消火器	2	0.3	もみ消した	13	2.0
粉末消火器	118	18.4	その他	42	6.6
屋内消火栓設備	4	0.6	初期消火なし	240	37.4
二酸化炭素消火設備	1	0.2	合計	642	100.00

(5) 消防機関が主として使用した水利

消防機関が主として使用した水利は、消火栓によるものが多い。

なお、使用なしは初期消火等によって消し止められたものである。(表6)

表6 消火に主として使用した水利（令和2年1月1日から令和2年12月31日まで）

区分	消火栓	私設消火栓	防火水槽	河川・溝等	濠・池等	海・湖	積載水	その他	使用なし	合計
件数	134	1	41	19	7	2	124	4	310	642
全体比(%)	20.9	0.2	6.4	2.9	1.1	0.3	19.3	0.6	48.3	100.0

(6) 焼損面積

建物焼損床面積は、64,198平方メートルで前年(22,449平方メートル)に比べ41,749平方メートルの増加となった。建物焼損表面積は、1,532平方メートルで前年(1,510平方メートル)に比べ22平方メートルの増加となった。林野火災焼損面積は、304aで前年(1,088a)に比べ、784aの減少となった。(第1表)

第1表 火災報告総括表
(令和2年1月1日～令和2年12月31日)

	出火件数							焼損棟数					焼損面積			死者	負傷者
	計	建物	林野	車両	船舶	航空機	その他	合計	全焼	半焼	部分焼	ぼや	建物(平米)		林野 (アール)		
													床面積	表面積			
1月	64	47	2	5	0	0	10	63	13	4	8	38	2,368	41	2	5	12
2月	50	31	0	4	0	0	15	51	11	5	10	25	1,098	120	0	3	10
3月	68	41	3	4	1	0	19	66	24	3	17	22	3,787	322	11	6	16
4月	74	33	6	6	0	0	29	51	15	2	14	20	45,061	164	177	1	8
5月	57	28	7	5	0	0	17	52	16	4	13	19	2,295	109	95	1	19
6月	57	26	3	4	1	0	23	51	21	2	9	19	1,925	180	12	1	9
7月	34	19	0	6	0	0	9	22	2	1	7	12	151	27	0	0	4
8月	46	25	2	7	0	0	12	35	8	2	7	18	1,591	195	0	0	11
9月	50	34	0	8	0	0	8	47	10	0	8	29	1,674	105	0	2	10
10月	32	17	1	6	1	0	7	19	1	0	4	14	62	42	1	3	0
11月	50	24	3	6	0	0	17	33	12	2	4	15	2,057	77	5	0	4
12月	60	44	1	8	0	0	7	67	16	5	18	28	2,129	150	1	4	9
合計	642	369	28	69	3	0	173	557	149	30	119	259	64,198	1,532	304	26	112
R1年	654	356	31	79	0	0	188	584	181	33	140	230	22,449	1,510	1,088	28	97
対前年比	△12	13	△3	△10	3	0	△15	△27	△32	△3	△21	29	41,749	22	△784	△2	15
H30年	650	369	15	78	0	0	188	570	148	33	157	232	22,486	1,325	345	26	134
H29年	724	362	28	95	0	0	239	614	195	25	152	242	24,266	1,779	924	30	116
H28年	734	387	28	102	3	0	214	598	172	33	158	235	26,010	1,102	358	30	118
H27年	779	410	27	82	2	0	258	594	167	24	147	256	19,941	1,176	179	28	105
H26年	846	449	44	90	1	0	262	708	225	26	171	286	28,783	1,578	1,345	40	120
H25年	893	455	58	93	3	0	284	669	198	36	176	259	28,551	1,171	845	33	121
H24年	845	501	18	80	3	0	243	732	191	35	171	335	24,566	1,861	206	48	136
H23年	1,200	635	49	129	0	0	387	1,319	595	67	288	369	95,136	2,527	26,473	43	141

	り災世帯				り災人員	損害見積額(千円)									
	計	全損	半損	小損		計	建物			林野	車両	船舶	航空機	その他	爆発
							小計	建築物	収容物						
1月	39	13	3	23	75	307,989	304,907	187,993	116,914	128	2,232	0	0	722	0
2月	31	4	2	25	60	59,363	42,593	33,027	9,566	0	1,808	0	0	14,962	0
3月	38	13	3	22	92	158,138	148,819	130,428	18,391	170	1,036	7,827	0	286	0
4月	23	3	1	19	55	5,740,958	5,730,829	4,295,919	1,434,910	120	8,433	0	0	1,576	0
5月	25	4	2	19	62	125,389	122,488	83,054	39,434	443	2,110	0	0	348	0
6月	28	6	1	21	74	85,624	81,414	62,867	18,547	125	1,371	2,323	0	391	0
7月	9	0	1	8	21	33,129	30,577	6,764	23,813	0	2,178	0	0	374	0
8月	14	2	1	11	27	62,200	60,380	44,317	16,063	0	1,747	0	0	73	0
9月	29	8	0	21	79	152,914	122,106	105,710	16,396	20	6,334	0	0	23,601	853
10月	9	1	0	8	17	29,185	26,644	1,179	25,465	15	785	970	0	771	0
11月	24	8	1	15	66	101,708	95,923	67,441	28,482	48	4,189	0	0	1,548	0
12月	55	13	11	31	110	100,171	92,027	81,578	10,449	0	7,870	0	0	274	0
合計	324	75	26	223	738	6,956,768	6,858,707	5,100,277	1,758,430	1,069	40,093	11,120	0	44,926	853
R1年	287	85	9	193	638	1,305,271	1,239,954	984,560	255,394	12,874	33,053	0	0	19,390	0
対前年比	37	△10	17	30	100	5,651,497	5,618,753	4,115,717	1,503,036	△11,805	7,040	11,120	0	25,536	853
H30年	340	82	21	237	814	1,545,862	1,375,690	993,553	382,137	1,619	78,139	0	0	89,391	1,023
H29年	346	90	16	240	861	1,966,232	1,895,695	1,143,274	752,421	14,739	42,274	0	0	13,523	1
H28年	358	99	14	245	872	2,377,742	2,129,509	1,095,561	1,033,948	1,723	49,562	80,045	0	116,903	0
H27年	302	62	15	225	827	1,079,466	1,017,540	765,154	252,386	2,651	42,075	989	0	15,636	575
H26年	388	91	15	282	1,037	1,590,790	1,486,629	1,071,437	415,192	6,646	71,080	0	0	24,632	1,803
H25年	398	102	25	271	1,058	2,076,331	1,914,304	1,397,446	516,858	9,181	107,544	12,799	0	32,470	33
H24年	441	111	27	303	1,062	1,351,089	1,266,986	872,457	394,529	9,551	35,393	5,261	0	30,249	3,649
H23年	636	255	25	356	1,718	9,848,869	9,622,479	8,165,484	1,456,995	4,325	67,252	8,243	0	146,292	278

(7) 損害額

損害額は、6,956,768千円で前年(1,305,271千円)より5,651,497千円増加した。

火災種別ごとの損害額をみると、建物火災が一番多く6,858,707千円で、全体の98.59%を占めている。(表7)

表7 火災種別損害額
(令和2年1月1日から令和2年12月31日まで)

	合計	建物			林野	車両	船舶	航空機	その他	爆発
		小計	建築物	収容物						
損害額 (千円)	6,956,768	6,858,707	5,100,277	1,758,430	1,069	40,093	11,120	0	44,926	853
構成比	100.00%	98.59%	74.36%	25.64%	0.02%	0.58%	0.16%	0.00%	0.65%	0.01%
1件当り 平均 (千円)	7,790	15,074	—	—	18	431	3,707	0	158	—

(8) 火災の原因

火災原因では、放火・放火の疑い96件が最も多く、次いでたばこ49件、こんろ47件、電灯・電話等の配線36件と続いている。(表8)

これらの火災の原因中、放火・放火の疑い、不明・調査中を除いた、いわゆる失火とされるものが490件で、全体の76.32%を占めており、今後ともあらゆる機会をとらえて火災予防意識の高揚を図る必要がある。

表 8 出火原因別一覧表
(令和2年1月1日から令和2年12月31日まで)

順位	原因	件数	火災種別内訳					
			建物	林野	車両	船舶	航空機	その他
1	放火・放火の疑い	96	47	2	5	0	0	42
2	たばこ	49	31	4	2	0	0	12
3	こんろ	47	44	0	1	0	0	2
4	電灯電話等の配線	36	25	0	2	1	0	8
5	ストーブ	31	31	0	0	0	0	0
5	たき火	31	7	8	0	0	0	16
7	配線器具	26	20	0	3	0	0	3
7	電気機器	26	19	0	5	0	0	2
9	火入れ	22	1	2	0	0	0	19
10	排気管	20	1	0	18	0	0	1
11	電気装置	15	13	0	1	0	0	1
12	灯火	8	8	0	0	0	0	0
13	取灰	7	4	2	0	0	0	1
14	焼却炉	6	3	0	0	0	0	3
15	溶接機・切断機	5	4	0	0	0	0	1
15	内燃機関	5	1	0	2	0	0	2
17	火遊び	4	1	0	0	0	0	3
17	マッチ・ライター	4	2	0	1	0	0	1
17	煙突・煙道	4	4	0	0	0	0	0
20	衝突の火花	3	0	0	3	0	0	0
21	風呂かまど	2	2	0	0	0	0	0
21	かまど	2	2	0	0	0	0	0
21	炉	2	2	0	0	0	0	0
24	こたつ	1	1	0	0	0	0	0
24	ボイラー	1	1	0	0	0	0	0
	その他	133	62	4	20	0	0	47
	不明・調査中	56	33	6	6	2	0	9
	合計	642	369	28	69	3	0	173

(9) 死傷者

火災による死傷者は、死者 26 人、負傷者 112 人となっており、前年に比べ、死者が 2 人減少し、負傷者が 15 人増加している。(第 1 表)

死者の原因をみると、火傷 10 人、自殺 7 人、一酸化炭素中毒・窒息死 4 人、その他・不明 5 人となっており、火傷及び一酸化炭素中毒・窒息死が全体の 53.84%を占めている。(第 2 表)

また、死者の年齢構成別では、71～80 才の年齢層が最も多い。(表 10)

表9 火災種別死傷者数

(令和2年1月1日から令和2年12月31日まで)

	建物	林野	車両	船舶	航空機	その他	計
死者	22	0	3	0	0	1	26
負傷者	91	0	7	1	0	13	112

表10 死者の年齢別調

(令和2年1月1日から令和2年12月31日まで)

性別	0~ 10才	11~ 20才	21~ 30才	31~ 40才	41~ 50才	51~ 60才	61~ 70才	71~ 80才	81才~	不明	合計
男	0	0	0	2	0	3	4	8	1	0	18
女	0	1	0	0	2	1	1	2	1	0	8
不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	1	0	2	2	4	5	10	2	0	26

第1表 火災報告総括表
(令和2年1月1日～令和2年12月31日)

	出火件数										焼損棟数					焼損面積				死者	負傷者
	計	建物	林野	車両	船舶	航空機	その他	合計	全焼	半焼	部分焼	ぼや	建物(平米)		林野(アール)						
													床面積	表面積							
1月	64	47	2	5	0	0	10	63	13	4	8	38	2,368	41	2	5	12				
2月	50	31	0	4	0	0	15	51	11	5	10	25	1,098	120	0	3	10				
3月	68	41	3	4	1	0	19	66	24	3	17	22	3,787	322	11	6	16				
4月	74	33	6	6	0	0	29	51	15	2	14	20	45,061	164	177	1	8				
5月	57	28	7	5	0	0	17	52	16	4	13	19	2,295	109	95	1	19				
6月	57	26	3	4	1	0	23	51	21	2	9	19	1,925	180	12	1	9				
7月	34	19	0	6	0	0	9	22	2	1	7	12	151	27	0	0	4				
8月	46	25	2	7	0	0	12	35	8	2	7	18	1,591	195	0	0	11				
9月	50	34	0	8	0	0	8	47	10	0	8	29	1,674	105	0	2	10				
10月	32	17	1	6	1	0	7	19	1	0	4	14	62	42	1	3	0				
11月	50	24	3	6	0	0	17	33	12	2	4	15	2,057	77	5	0	4				
12月	60	44	1	8	0	0	7	67	16	5	18	28	2,129	150	1	4	9				
合計	642	369	28	69	3	0	173	557	149	30	119	259	64,198	1,532	304	26	112				
R1年	654	356	31	79	0	0	188	584	181	33	140	230	22,449	1,510	1,088	28	97				
対前年比	△ 12	13	△ 3	△ 10	3	0	△ 15	△ 27	△ 32	△ 3	△ 21	29	41,749	22	△ 784	△ 2	15				
H30年	650	369	15	78	0	0	188	570	148	33	157	232	22,486	1,325	345	26	134				
H29年	724	362	28	95	0	0	239	614	195	25	152	242	24,266	1,779	924	30	116				
H28年	734	387	28	102	3	0	214	598	172	33	158	235	26,010	1,102	358	30	118				
H27年	779	410	27	82	2	0	258	594	167	24	147	256	19,941	1,176	179	28	105				
H26年	846	449	44	90	1	0	262	708	225	26	171	286	28,783	1,578	1,345	40	120				
H25年	893	455	58	93	3	0	284	669	198	36	176	259	28,551	1,171	845	33	121				
H24年	845	501	18	80	3	0	243	732	191	35	171	335	24,566	1,861	206	48	136				
H23年	1,200	635	49	129	0	0	387	1,319	595	67	288	369	95,136	2,527	26,473	43	141				

	災害見積額 (千円)														
	り災世帯					り災人員									
	計	全損	半損	小損	り災人員	計	建物			林野	車両	船舶	航空機	その他	爆発
							小計	建築物	収容物						
1月	39	13	3	23	75	307,989	304,907	187,993	116,914	128	2,232	0	0	722	0
2月	31	4	2	25	60	59,363	42,593	33,027	9,566	0	1,808	0	0	14,962	0
3月	38	13	3	22	92	158,138	148,819	130,428	18,391	170	1,036	7,827	0	286	0
4月	23	3	1	19	55	5,740,958	5,730,829	4,295,919	1,434,910	120	8,433	0	0	1,576	0
5月	25	4	2	19	62	125,389	122,488	83,054	39,434	443	2,110	0	0	348	0
6月	28	6	1	21	74	85,624	81,414	62,867	18,547	125	1,371	2,323	0	391	0
7月	9	0	1	8	21	33,129	30,577	6,764	23,813	0	2,178	0	0	374	0
8月	14	2	1	11	27	62,200	60,380	44,317	16,063	0	1,747	0	0	73	0
9月	29	8	0	21	79	152,914	122,106	105,710	16,396	20	6,334	0	0	23,601	853
10月	9	1	0	8	17	29,185	26,644	1,179	25,465	15	785	970	0	771	0
11月	24	8	1	15	66	101,708	95,923	67,441	28,482	48	4,189	0	0	1,548	0
12月	55	13	11	31	110	100,171	92,027	81,578	10,449	0	7,870	0	0	274	0
合計	324	75	26	223	738	6,956,768	6,858,707	5,100,277	1,758,430	1,069	40,093	11,120	0	44,926	853
R1年	287	85	9	193	638	1,305,271	1,239,954	984,560	255,394	12,874	33,053	0	0	19,390	0
対前年比	37	△ 10	17	30	100	5,651,497	5,618,753	4,115,717	1,503,036	△ 11,805	7,040	11,120	0	25,536	853
H30年	340	82	21	237	814	1,545,862	1,375,690	993,553	382,137	1,619	78,139	0	0	89,391	1,023
H29年	346	90	16	240	861	1,966,232	1,895,695	1,143,274	752,421	14,739	42,274	0	0	13,523	1
H28年	358	99	14	245	872	2,377,742	2,129,509	1,095,561	1,033,948	1,723	49,562	80,045	0	116,903	0
H27年	302	62	15	225	827	1,079,466	1,017,540	765,154	252,386	2,651	42,075	989	0	15,636	575
H26年	388	91	15	282	1,037	1,590,790	1,486,629	1,071,437	415,192	6,646	71,080	0	0	24,632	1,803
H25年	398	102	25	271	1,058	2,076,331	1,914,304	1,397,446	516,858	9,181	107,544	12,799	0	32,470	33
H24年	441	111	27	303	1,062	1,351,089	1,266,986	872,457	394,529	9,551	35,393	5,261	0	30,249	3,649
H23年	636	255	25	356	1,718	9,848,869	9,622,479	8,165,484	1,456,995	4,325	67,252	8,243	0	146,292	278

凡 例

この年報の火災概況は、総務省消防庁が定めた「火災報告取扱要領」により、市町村長から報告された平成30年1月から12月までの火災をとりまとめたものである。

ここに掲げる主なる用語の意義は次のとおりである。

1 火災

ここにいう「火災」とは、人の意図に反して発生し若しくは拡大し、又は放火により発生して消火の必要がある燃焼現象であって、これを消火するために消火施設又はこれと同程度の効果のあるものの利用を必要とするもの、又は人の意図に反して発生し若しくは拡大した爆発現象をいう。

2 火災件数

「1件の火災」とは、一つの出火点から拡大したもので、出火に始まり鎮火するまでをいう。

3 火災の種別

(1) 建物火災

建物又はその収用物が焼損した火災をいう。

ここにいう「建物」とは、土地に定着する工作物のうち屋根及び柱若しくは壁を有するもの、観覧のための工作物又は地下若しくは高架の工作物に設けた事務所、店舗、興業場、倉庫その他これらに類する施設をいい、貯蔵槽その他これに類する施設を除くものをいう。

(2) 林野火災

森林、原野又は牧野が焼損した火災をいう。

(3) 車両火災

自動車車両、鉄道車両及び被けん引車又はこれらの積載物が焼損した火災をいう。

(4) 船舶火災

船舶又はその積載物が焼損した火災をいう。

(5) 航空機火災

航空機又はその積載物が焼損した火災をいう。

(6) その他の火災

(1) ～ (5) に含まれない火災をいう。

(空地、田畑、道路、河川敷、ごみ集積場、屋外物品集積場、軌道敷、電柱類等の火災)

4 爆発

1. 「爆発」とは、人の意図に反して発生又は拡大した爆発現象をいう。

2. 「爆発現象」とは、科学的变化による爆発の一つの形態であり、急速に進行する科学反応によって多量のガスと熱とを発生し、爆鳴・火炎及び破壊作用を伴う現象をいう。

5 火災損害

ここにいう「火災損害」とは、火災によって受けた直接的な損害（人の死傷及び物の損害）をいう。火災損害には消火活動に伴う破壊水損等によって生じた損害を含み、消火のために要した経費、焼跡整理費、り災のための休業による損失等の間接的な損害は含まない。

6 損害額

損害額算定の基準は、り災地における時価（り災当時の価格）による。

7 焼損棟数

焼損した建物の棟数をいい、焼損程度により全焼、半焼、部分焼き、ぼやの四つに区分する。

(1) 全焼

建物の焼き損害額が、火災前の建物の評価額の70%以上のもの又はこれ未満であっても残存部分に補修を加え再使用できないものをいう。

(2) 半焼

建物の焼き損害額が火災前の建物の評価額の20%以上のもので全焼に該当しないものをいう。

(3) 部分焼

建物の焼き損害額が、火災前の建物の評価額の20%未満のものでぼやに該当しないものをいう。

(4) ぼや

建物の焼き損害額が火災前の建物の評価額の10%未満であり焼損床面積が1平方メートル未満のもの。建物の焼き損害額が火災前の建物の評価額の10%未満であり焼損表面積が1平方メートル未満のもの、又は収容物のみ焼損したものをいう。

8 焼損面積

(1) 建物焼損床面積

建物の焼損が立体的に及んだ場合、焼損したことによって機能が失われた部分の床面積をいう。

(2) 建物焼損表面積

建物の焼損が部分的である場合（立体的に焼損が及ばなかった場合）、例えば内壁、天井、床板等部分的なものの表面積をいう。

9 り災世帯

り災の程度によって、全損、半損、小損の三つに区分する。

(1) 全損

建物（収容物を含む。以下半損、小損において同じ。）の火災損害額が、り災前の建物の評価額の70%以上のものをいう。

(2) 半損

建物の火災損害額が、り災前の建物の評価額の20%以上で、全損に該当しないものをいう。

(3) 小損

建物の火災損害額が、り災前の建物の評価額の20%未満のものをいう。

10 り災人員

一般世帯がり災した場合には、当該世帯の全ての人員をり災人員とする。ただし、共同住宅の共用部分のみをり災した場合には、り災人員を計上しない。

施設等の世帯がり災した場合には、被害を受けた「へや」に居住する人員又は実際に火災被害を受けた人員のみをり災人員とする。

11 出火率

人口1万人当たりの数値である。

2 自然災害等

(1) 令和2年の災害等の発生状況 (前回防災会議(令和2年2月)報告分以降)

【被害件数】	
地	震： 2件
風	水 害： 7件
雪	害： 2件
合	計： 11件

宮城県

令和2年の災害等の発生状況

年月日・種別	概 要
R2. 2. 11 大雪	<p>県内で大雪による被害が発生した。</p> <p>《被害状況》</p> <p>人的被害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 軽傷者 1名
R2. 3. 20 暴風	<p>県内で暴風等による被害が発生した。</p> <p>《被害状況》</p> <p>(1) 被害総額 32,265千円 内訳)</p> <p>農産被害 23,184千円</p> <p>畜産被害 8,831千円</p> <p>水産被害 250千円</p>
R2. 4. 18 大雨	<p>県内で大雨による被害が発生した。</p> <p>《被害状況》</p> <p>(1) 人的被害 軽傷者2人</p> <p>(2) 被害総額 436,637千円 内訳)</p> <p>農林水産業施設被害 68,089千円</p> <p>農産被害 39,498千円</p> <p>林産被害 10,000千円</p> <p>畜産被害 38,289千円</p> <p>水産被害 280,729千円</p> <p>その他の公共施設被害 32千円</p>
R2. 4. 20 地震	<p>県内で地震による被害が発生した。</p> <p>《被害状況》</p> <p>(1) 人的被害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 重傷者 1人
R2. 7. 22 大雨	<p>県内で地震による被害が発生した。</p> <p>《被害状況》</p> <p>被害総額 1,500千円 内訳)</p> <p>公共土木施設被害 1,500千円</p>

<p>R2. 7. 28 大雨</p>	<p>県内で大雨による被害が発生した。 《被害状況》 (1) 被害総額 203,667千円 内訳) 公共土木施設被害 82,240千円 農林水産業施設被害 56,878千円 農産被害 4,536千円 林産被害 60,000千円 畜産被害 13千円</p>
<p>R2. 9. 5 大雨</p>	<p>県内で大雨による被害が発生した。 《被害状況》 (1) 被害総額 303千円 内訳) 農産被害 303千円</p>
<p>R2. 9. 10 大雨</p>	<p>県内で大雨による被害が発生した。 《被害状況》 (1) 住家被害 床下浸水 1棟 (2) 被害総額 390千円 内訳) 農林水産業施設被害 390千円</p>
<p>R2. 9. 12 地震</p>	<p>県内で地震による被害が発生した。 《被害状況》 (1) 人的被害 軽傷者 1名</p>
<p>R2. 9. 12 大雨</p>	<p>県内で大雨による被害が発生した。 《被害状況》 (1) 住家被害 床下浸水 14棟</p>

R2. 12. 17～ 大雪	県内で大雪による被害が発生した。 《被害状況》 (1) 人的被害 死者 2名 軽傷者 1名 (2) 住家被害 一部破損 5棟 (3) 被害総額 336,220千円 内訳) 農産被害 268,640千円 畜産被害 68,180千円
-------------------	--

※被害状況は消防庁報告による。

※なお、被害が発生しなかった自然現象については、計上していない。

